

# 令和5年度青森県持続可能な買い物支援 サービス網構築事業に係る成果発表会



全体事務局：  
株式会社ケー・シー・エス

# ■ 本日の内容

## I. 事業概要

## II. 実証事業の内容

- ・地区の現状、実施体制、内容など

## III. 実証事業の結果

- ・登録状況、実証バスの利用状況、アンケート・ヒアリング結果、経費など

## IV. 効果・課題

- ・実証による効果（利用者・地域の視点、協力店舗の視点、地元自治体の視点）
- ・今後の課題

## V. 今後の方策案

## VI. まとめ



# I. 事業概要

(R4～5持続可能な買い物支援サービス網構築事業)



# 1. 令和4年度の実施内容

- 本事業は、県の重点枠事業として令和4～5年度の2ヵ年実施
- 令和4年度は、県内における買い物弱者の実態調査や地域住民アンケートといった実態把握を行った上で、食品スーパーや交通事業者など関係者による研究会での協議・検討を経て、実証スキームを取りまとめた（実証実施地域：八戸市笹ノ沢地区、新郷村（全域））

## <実施内容>

項目	概要
令和4年6月	・持続可能な買い物支援サービス研究会紹介セミナー（研究会①）
令和4年7月～8月	・研究会メンバーの募集 ・研究会メンバー市町村及びスーパー等へのヒアリング調査の実施 ・県内買い物弱者実態調査の実施 ・県内スーパー等の買い物支援サービス実態調査 ・持続可能な買い物支援サービス研究会②
令和4年9月～11月	・研究会メンバーへの実証事業参画意向ヒアリング等
令和4年12月 ～令和5年2月	・実証想定市町村との打合せ ・住民アンケート調査
令和5年2月～3月	・持続可能な買い物支援サービス研究会③・④



# 2. 令和5年度の実施内容（事業概要）

## 持続可能な買い物支援サービス網構築事業費

### 現状分析と課題

#### 現状分析

- ◆本県の65歳以上の老年人口が2025年時点で絶対数のピーク  
(2015年 39.4万人  
→2025年 41.9万人)
- ◆老年人口割合は、2045年まで上昇  
(2015年 30.1%→2025年 36.4%→2045年 41.9%)
- ◆2015年における65歳以上の買い物弱者は13.2万人と推計

#### 課題

- 買い物支援事業の採算性確保には、買い物客(売上)の確保が重要
- 買い物バス乗車ポイント(公民館等)への来訪促進や買い物利便性の向上が必要
- 原油高など事業環境変化にも対応し、売上を安定的に確保できる仕組みが必要

### 事業の内容（アウトプット）

#### 【概要】

交通手段を持たず広域的移動が困難な買い物弱者をターゲットとし、地域に点在する食品スーパーを核とした持続可能な買い物支援サービス網を構築する。

#### 取組1 持続可能な買い物支援対策実証事業の実施

令和4年度の「持続可能な買い物支援サービス研究会」検討結果を踏まえ、食品スーパーへの送迎サービス等の実証事業を実施する。

##### ①実証事業の実施<委託>

事業数：3件

内容：路線の設定、客数・客単価等への影響把握、実施に係る収支構造の把握、交通事業者との連携手法、利用者の評価 等

#### 取組2 実証事業の検証及び対策検討

取組1の効果・改善点等を検証するとともに、利用者満足度と事業採算性（継続性）の両立・強化に向けた方策を検討する。

##### ①専門部会<委託>

開催回数：2回/各実証

内容：実証事業に進捗管理、課題抽出・対策検討 等

メンバー：各実証事業メンバー、専門家、事務局 等

##### ②研究会<委託>

開催回数：2回/全体

内容：課題抽出・対策検討、結果整理・分析、利用者満足度と事業採算性（継続性）の両立・強化策、事業環境変化への対策 等

メンバー：3実証事業メンバー、専門家、事務局 等

##### ③成果発表会<委託>

開催回数：1回/全体

内容：実証事業の結果報告、今後の方策の提案 等

### 事業の目指す姿

#### 事業のアウトカム

- ◆買い物弱者ターゲット層の利用満足度の向上  
(R5 80%超)



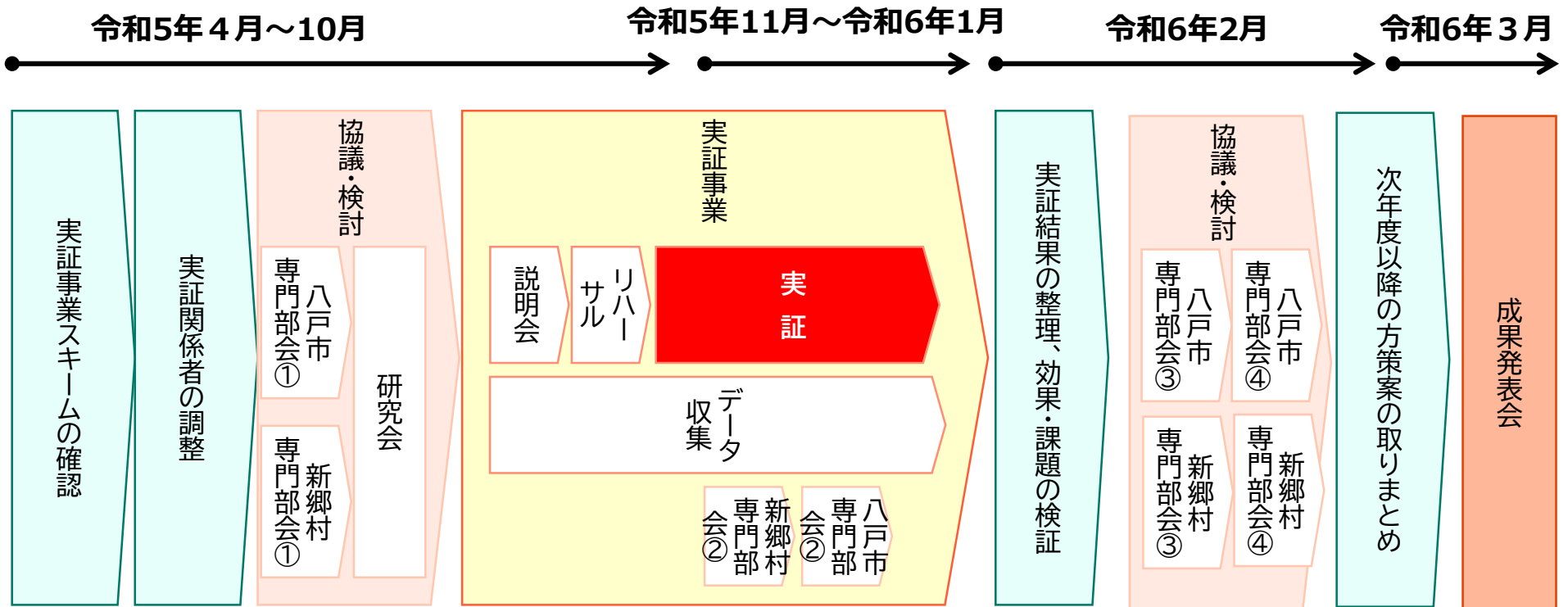
#### 最終アウトカム

- ◆食品スーパー等による送迎サービス等、持続可能な買い物弱者対策の構築（買い物弱者の減少）
- ◆買い物弱者支援による青森県型地域共生社会の実現



### 3. 令和5年度の実施内容（事業スケジュール）

#### <事業スケジュール>



## 4. 実証メンバー（八戸＋新郷）

### <八戸実証>

区分	所属
地域住民	笹ノ沢町内会
商業施設	(株)マエダ
	紅屋商事(株)
	(株)ユニバース
	(株)よこまち
	協同組合八食センター
	(株)丸大サクラ㊿薬局
	(株)薬王堂
運行事業者	東北医療福祉事業協同組合
交通事業者	岩手県北自動車(株)南部支社（南部バス）
市	八戸市 総合政策部 政策推進課
	八戸市 商工労働まちづくり部 商工課
関係団体	八戸市社会福祉協議会 地域福祉課
有識者	八戸学院大学 地域経営学部
	いわて地域づくり支援センター

### <新郷実証>

区分	所属
地域住民	新郷村内住民
商業施設	(株)マエダ
	(株)よこまち
	(株)丸大サクラ㊿薬局
	(株)薬王堂
	(株)管文
	五戸町中心商店街
運行事業者	千葉貨物運輸(株)
交通事業者	岩手県北自動車(株)南部支社（南部バス）
村・町	新郷村 企画商工観光課
	五戸町 総合政策課
関係団体	新郷村社会福祉協議会
	五戸町商工会 新郷支所
有識者	八戸学院大学 地域経営学部
	いわて地域づくり支援センター

## 5. 説明・広報（八戸・新郷）

- 実証地域において予め住民説明会を開催し、実証内容や利用方法の説明等を行った。
- 実証期間中、協力店舗への事業ポスターの掲示や住民あてニュースレターの発行等を行い、実証状況の広報と利用促進を図った。

令和5年度 青森県持続可能な買い物支援サービス網構築事業 実証事業

### 買い物バス実証運行のお知らせ

八戸市(笹ノ沢地区)・新郷村



青森県では、交通手段を持たず広域的な移動が困難なため、日々のお買い物にお困りの地域の方々を対象とした買い物支援の取組を進めています。

現在、八戸市(笹ノ沢地区)と新郷村(全域)の住民の方々を対象とする買い物バスの運行実証事業を、以下の商業施設様のご理解とご協力の下、実施しています。

実証期間 ▶ 令和5年11月から令和6年1月まで(約3か月間)

連携商業施設(順不同)



問い合わせ先(青森県持続可能な買い物支援サービス網構築事業 実証/全体事務局)

【実証について】NPO法人まちもびデザイン 0178-22-1601

【事業全体について】株式会社ケー・シー・エス北東北事務所 0178-72-4030



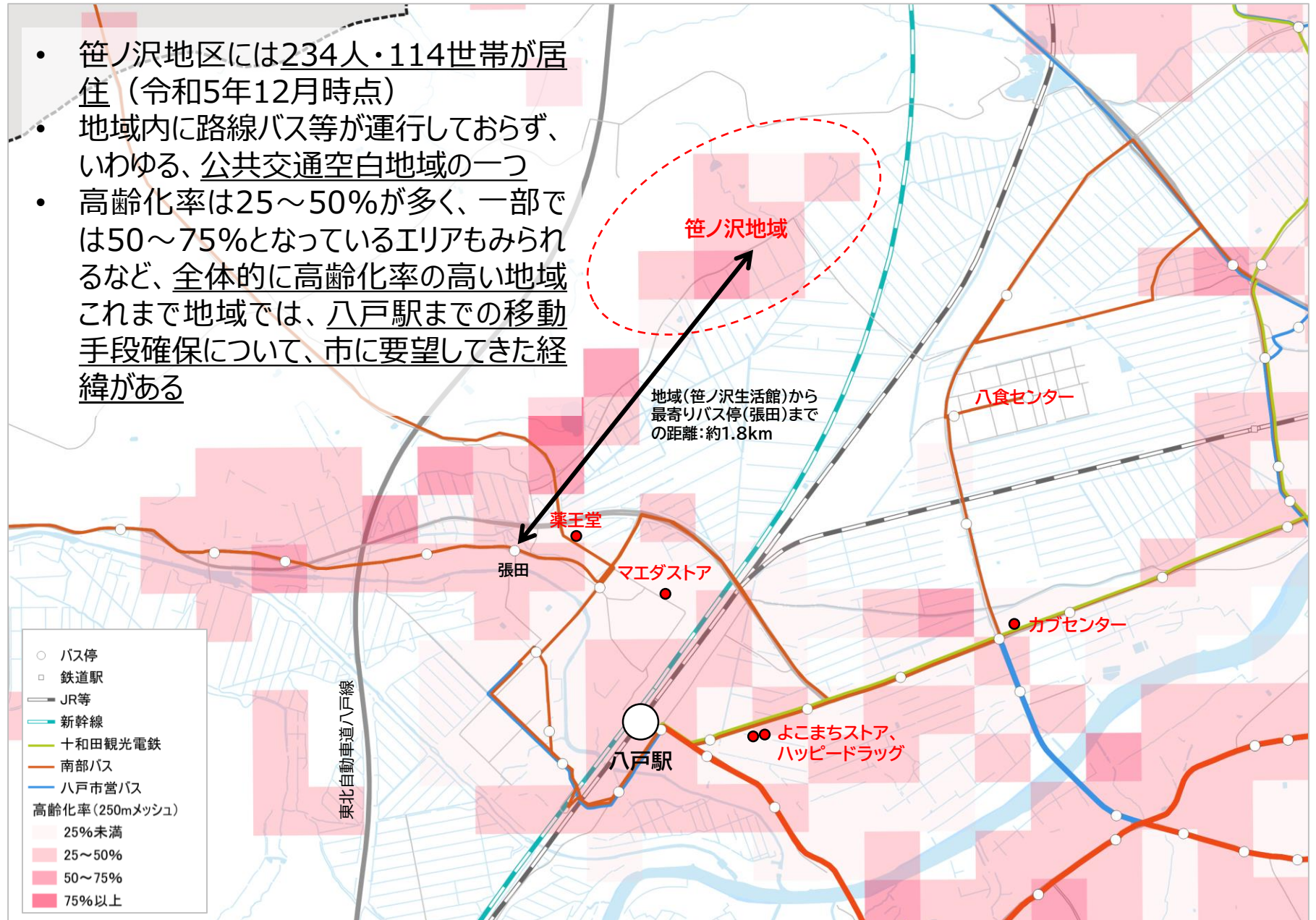
## Ⅱ. 実証事業の内容

### 八戸実証



# 1. 八戸市笹ノ沢地区の現状（交通事情）

- 笹ノ沢地区には234人・114世帯が居住（令和5年12月時点）
- 地域内に路線バス等が運行しておらず、いわゆる、公共交通空白地域の一つ
- 高齢化率は25～50%が多く、一部では50～75%となっているエリアもみられるなど、全体的に高齢化率の高い地域これまで地域では、八戸駅までの移動手段確保について、市に要望してきた経緯がある



## 2. 八戸実証の概要

- 「八戸市（笹ノ沢地区）」実証の内容は以下のとおり

### <八戸実証の概要>

項目	概要
対象エリア	八戸市笹ノ沢地区
路線数	2路線
運行形態	定時定路線型
料金	無料
運行曜日	1路線あたり、月曜日／木曜日（毎週） + 土曜日（月1回）
運行本数	1路線あたり、1日4回（4循環）
運行事業者	東北医療福祉事業協同組合
利用者	特定（登録制） ※事故・トラブルに備えた保険適用のため
使用車両	10人乗り車両（レンタカー） ※住民が考案した車名「おでかけバス」を車体にマグネット貼付

### 3. 八戸実証の実施体制

- 「八戸市（笹ノ沢地区）」実証は、以下のメンバー・役割分担により実施

#### <実証事業 実施体制>

区分	構成員	役割等
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 笹ノ沢町内会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明会やアンケート等により、事業に対する意見やアイデア等を発意</li> </ul>
商業事業者 ( ) 内は店舗 の名前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (株)マエダ (マエダストア)</li> <li>・ 紅屋商事(株) (カブセンター)</li> <li>・ (株)ユニバース (ユニバース)</li> <li>・ (株)よこまち (よこまちストア)</li> <li>・ 協同組合八食センター (八食センター)</li> <li>・ (株)丸大サクラ㊿薬局 (ハッピードラッグ)</li> <li>・ (株)薬王堂 (薬王堂) ※順不同</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的地となる施設側での対応方法の検討や、利用促進などの取組を実施</li> </ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩手県北自動車 南部支社 (南部バス)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の公共交通サービスに対する効果・影響の把握や留意点等の指摘</li> </ul>
運行事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北医療福祉事業協同組合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の運行管理や利用者への対応、調査等を実施</li> </ul>
行政・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 八戸市 商工課</li> <li>・ 八戸市 政策推進課</li> <li>・ 八戸市社会福祉協議会 地域福祉課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政策全般の視点から検討</li> </ul>
有識者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 八戸学院大学 堤教授</li> <li>・ いわて地域づくり支援センター 若菜常務理事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幅広い知見から事業への助言を実施</li> </ul>



# 4. 八戸実証の内容（詳細）

## (1) 運行コース

- 笹ノ沢地区と商業施設を結ぶルートで、買い物バスを運行した（ルートは下図のとおり）
- **運行頻度は、各ルート、週1日、1日あたり4便（午前2便、午後2便）**

<八戸駅周辺コース>



<ニュータウンコース>





## 4. 八戸実証の内容（詳細）

### （2）使用車両

- 10人乗り車両をレンタルにて調達
- 住民が考案した車名「おでかけバス」を車体にマグネット貼付



**バスの名称は  
住民が考案！**

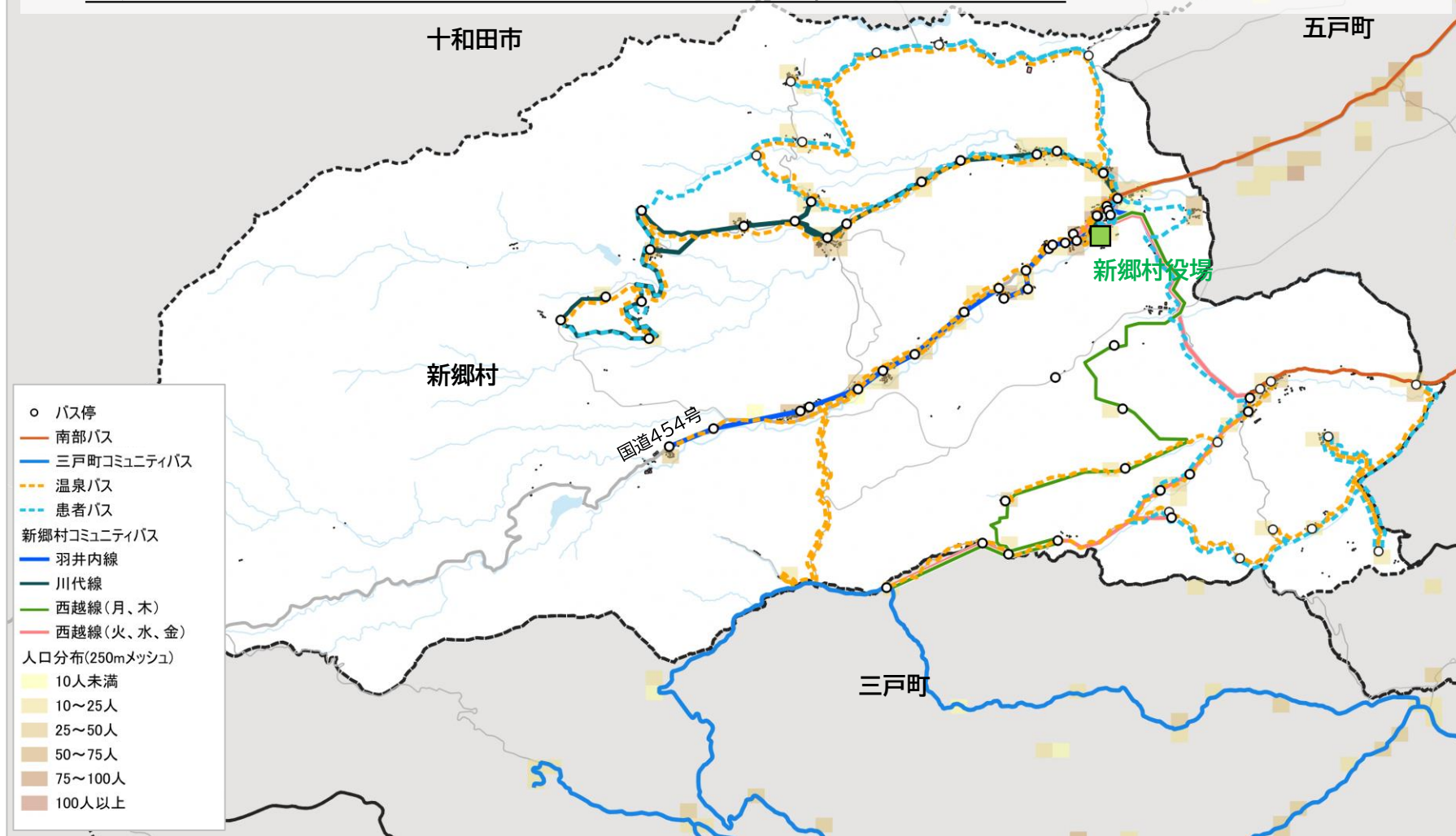


# 新郷実証



# 1. 新郷村の現状（交通事情）

- 新郷村の人口は2,197人、世帯数は788世帯、高齢化率は49.3%（R2年国勢調査）
- 村内には、コミュニティバス（みずばしょう号）、温泉バス、患者バスが運行中（無料で利用可）
- また、村の東部からは五戸町へ繋がる路線バス（南部バス）が運行している
- 五戸町への移動には、コミュニティバス等と路線バスを乗り継ぐ必要がある



## 2. 新郷実証の概要

- 「新郷村（全域）」実証の内容は以下のとおり

### <新郷実証の概要>

項目	概要
対象エリア	川代地区・小坂地区・戸来地区・西越地区
路線数	5 路線
運行形態	定時定路線型
料金	無料
運行曜日	1 路線あたり、月・火・水・木・金のうち 1 日（毎週） + 土曜日（実証期間中 2 回）
運行本数	1 路線あたり、1 日 1 往復
運行事業者	千葉貨物運輸(株)
利用者	特定（登録制） ※事故・トラブルに備えた保険適用のため
使用車両	29人乗り車両（レンタカー） ※住民が考案した車名「あんべ号」を車体にマグネット貼付



### 3. 新郷実証の実施体制

- 「新郷村」実証は、以下のメンバー・役割分担により実施

#### <実証事業 実施体制>

区分	構成員	役割等
地域住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新郷村内住民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会やアンケート等により、事業に対する意見やアイデア等を発意</li> </ul>
商業事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)マエダ (マエダストア)</li> <li>・(株)よこまち (よこまちストア)</li> <li>・(株)丸大サクラ薬局 (ハッピードラッグ)</li> <li>・(株)薬王堂 (薬王堂)</li> <li>・(株)管文 (かんぶん)</li> <li>・五戸町中心商店街 ※順不同</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地となる施設側での対応方法の検討や、利用促進などの取組を実施</li> </ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県北自動車 南部支社 (南部バス)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の公共交通サービスに対する効果・影響の把握や留意点等の指摘</li> </ul>
運行事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉貨物運輸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の運行管理や利用者への対応、調査等を実施</li> </ul>
行政・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新郷村 企画商工観光課</li> <li>・五戸町 総合政策課</li> <li>・新郷村社会福祉協議会</li> <li>・五戸町商工会 新郷支所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策全般の視点から検討</li> </ul>
有識者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸学院大学 堤教授</li> <li>・いわて地域づくり支援センター 若菜常務理事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知見から事業への助言を実施</li> </ul>





## 4. 新郷実証の内容（詳細）

### （2）使用車両

- 29人乗り車両をレンタルにて調達
- 住民が考案した車名「あんべ号」を車体にマグネット貼付



**バスの名称は  
住民が考案！**





# 【SGグループ×商業施設の連携イベントの開催】

- 東北医療福祉事業協同組合（SGグループ）の発意により、商業施設と連携したイベントを開催
- 買い物バスの運行日に開催し、笹ノ沢地域住民も参加

## ＜健康イベントの参加者数＞

場所	時間	ベジチェック	インボディ	内、笹ノ沢地域住民
よこまち	1/13（土）	39	25	1
薬王堂	1/13（土）	11	—	—
カブセンター	1/15（月）	35	28	2
ハッピードラック	1/15（月）	6	—	—
ユニバース	1/18（木）	37	24	1
合計		128	77	4



無料! このほりが目印です

ぜひお寄りください

# 健康チェック

SGグループ

1/13<sup>±</sup> 10:00~12:00 よこまちストア 一番町店

1/15<sup>月</sup> 10:00~12:00 カブセンター 長苗代店

1/18<sup>木</sup> 13:00~15:00 ユニバース 八戸ニュータウン店

### ベジチェック

あなたの野菜摂取量（推定）を手のひらで測定できます。



手をあてるだけ!

所要時間 3分

※ベジチェックは医療機器ではありません。表示される値はあくまでも目安です。

### インボディ

身体の基本成分である水分、タンパク質、ミネラル、体脂肪を分析し、栄養状態・筋肉バランス・水分バランスがわかります。



裸足で乗って握る!

所要時間 5分

※ベースメーカーを装着されている方は測定不可です。



## Ⅲ. 実証事業の結果

### 八戸実証



# 1. 登録状況

- 登録者数は44人（うち利用者は24人）
- 登録者の年齢層は60～70代が全体の約73%
- 登録者のうち約30%が運転免許を未保有、未保有のうち4人が単身世帯
- 利用者のうち、リピーター（複数回利用者）は約88%

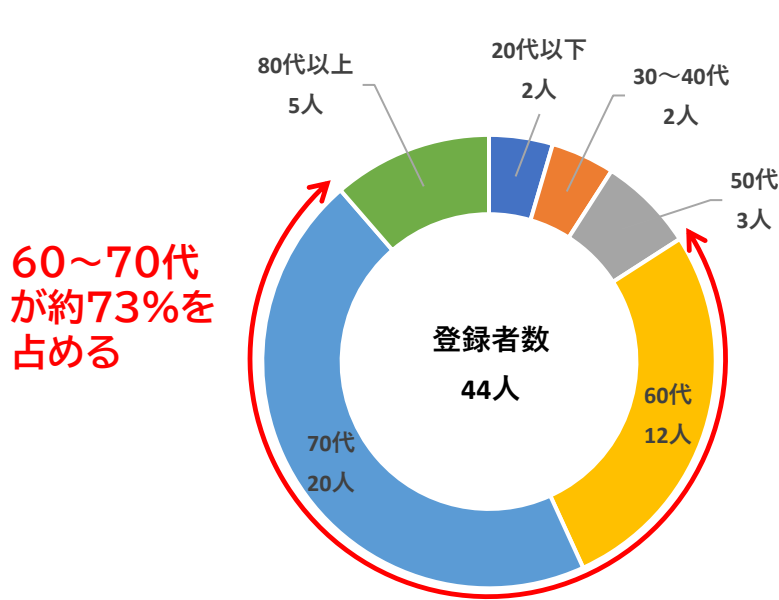


図1 登録者の年齢構成

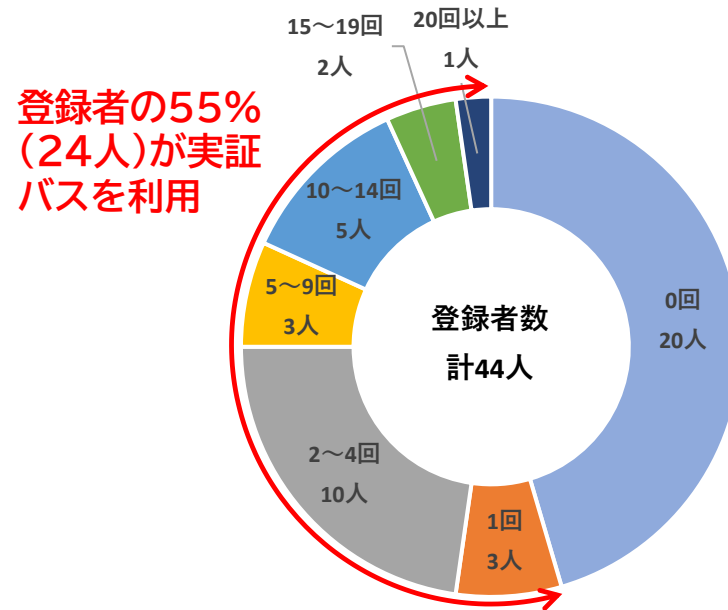


図2 登録者の利用回数



## 2. 実証バスの運行・利用状況

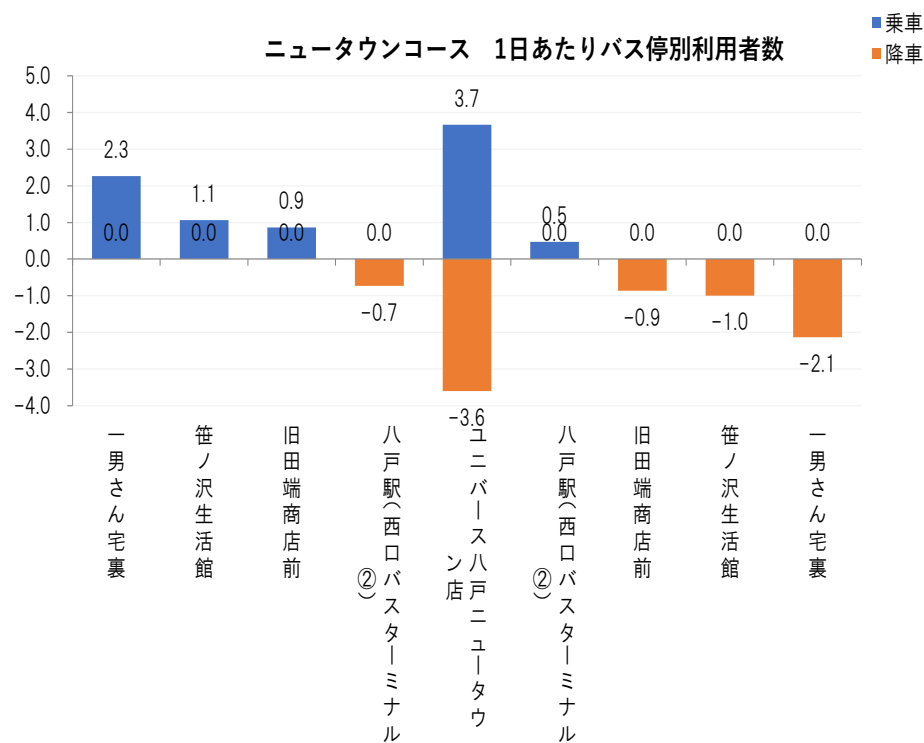
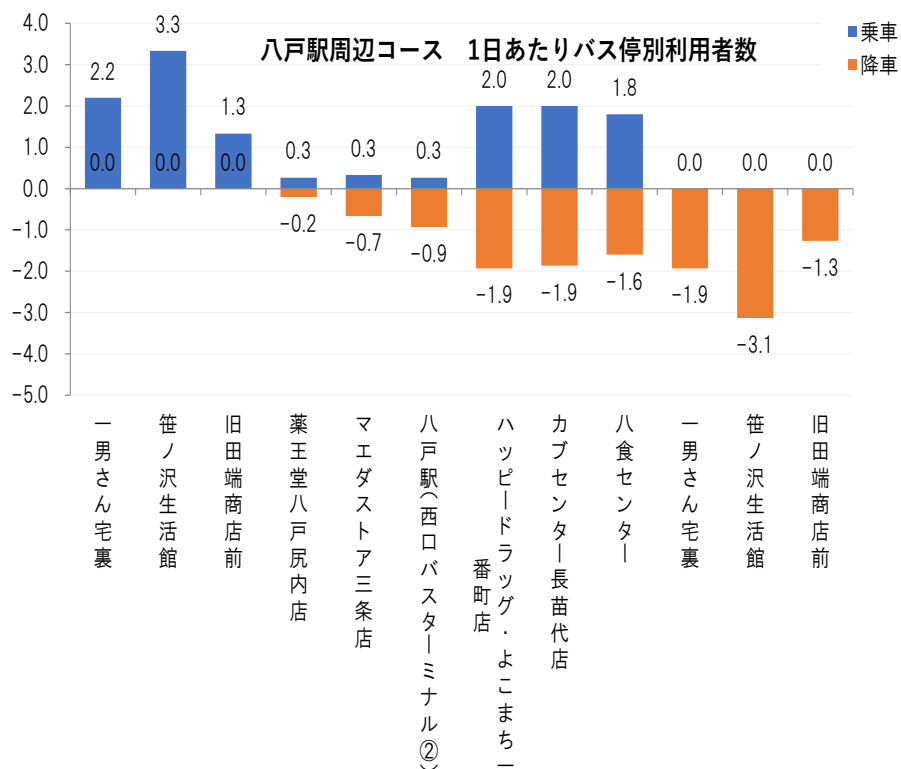
- バスの運行日数は、合計30日、運休なし
- 期間中の延べ利用者数（全体）は、164人
- 1日平均利用者数は、5.4人

表1 利用者数（延べ・日平均）

区分	運行日数 ①	利用者数 （延べ） ②	利用者数 （日平均） ②÷①
駅周辺コース	15日	101人	6.7人
ニュータウンコース	15日	63人	4.2人
合計	30日	164人	5.4人

### 3. 利用者の動向・買い物の動向

- バス停別の利用者数は、駅周辺コースではハッピードラッグ・よこまちストア・カブセンターの順、ニュータウンコースはユニバースでの乗車・降車が多い
- 買い物物品目では、駅周辺コース・ニュータウンコース共に、「生鮮食品」が最も多く、利用金額の64%を占める



## 4. 店舗別利用者数

- 駅周辺コースの延べ利用者数は、多い順で、よこまちストア（31人）、カブセンター（29人）、八食センター（25人）
- 1日あたりの利用者数（3か月平均）は、多い順で、よこまちストア（2.1人）、カブセンター（1.9人）、八食センター（1.7人）
- ニュータウンコースの店舗別延べ利用者数は、多い順で、ユニバース（50人）、しまむら（22人）、ダイソー（19人）
- 1日あたりの利用者数（3か月平均）は多い順で、ユニバース（3.3人）、しまむら（1.5人）、ダイソー（1.3人）

### 駅周辺コース

表2 店舗別利用者数

店舗名	計（15回運行）	3か月平均
よこまちストア	31人	2.1人
カブセンター	29人	1.9人
その他	27人	1.8人
八食センター	25人	1.7人
八戸駅	17人	1.1人
マエダストア	9人	0.6人
ハッピードラッグ	9人	0.6人
セリア	8人	0.5人
薬王堂	2人	0.1人

### ニュータウンコース

表3 店舗別利用者数

店舗名	計（15回運行）	3か月平均
ユニバース	50人	3.3人
しまむら	22人	1.5人
その他	21人	1.4人
ダイソー	19人	1.3人
サンドラッグ	15人	1.0人
八戸駅	11人	0.7人

## 5. 実証参加者の感想（主なもの）

### ＜実証参加者の感想＞

利用者	・買い物もちろんだが、 <u>バスの中の会話が楽しい</u> 。これからも利用したい。
	・移動スーパーも回ってくるが、品数が少なかったり、欲しいものがなかったりする。 <u>自分で行って欲しいものが買えるのでとても便利で楽しい</u> 。
	・ <u>今回の事業にとっても感謝している。とても助かる</u> 。
	・八戸駅で乗降できるのは、移動範囲が広がり助かる。
	・ <u>笹ノ沢⇔八食・八戸駅でもいいので運行を継続して欲しい</u> 。
・ユニバース、よここまちは <u>休憩場所があるので利用しやすい</u> 。	
商業施設	・今回の事業では利用者から特に不満の声もなく、 <u>満足してもらえたと感じる</u> 。
	・ <u>客単価が高く、期待以上の効果があったように感じる</u> 。お客様の感想を見ると、取り組みの意義を感じた。
	・ <u>引き続き協力する</u> 。現時点で明確なイメージは持てないが、出資金は変動式がよい。 お客様が楽しむ・満足することに期待したい。
・協力可能だが、協力金の出資は実績を踏まえると現段階で難しい。提案に対する検討は行いたい。 <u>買い物バスに協賛企業名を掲示してはどうか</u> 。	
運行事業者	・学生の利用実績あり、 <u>車を持たない若年層の利用も見られた</u> 。
	・老々介護しながらの外出が大変との声あり、 <u>継続してもらえることを熱望</u> されていた。



## 6. アンケート・ヒアリング結果

### ■ アンケート調査結果

- 買い物バスで良かった点は、1位「直通移動ができる」、2位「運動や気分転換」、3位「買い物を楽しむ手段」
- 買い物バスの利用により、移動販売の利用や家族・知人への買い物依頼などが減少
- 今後望むサービスは、1位「今回のような買い物バス」、2位「路線バスとの接続改善」

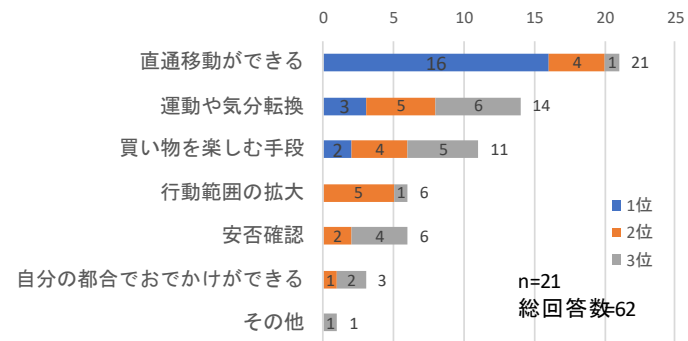


図3 買い物バスの利用で感じた良かった点

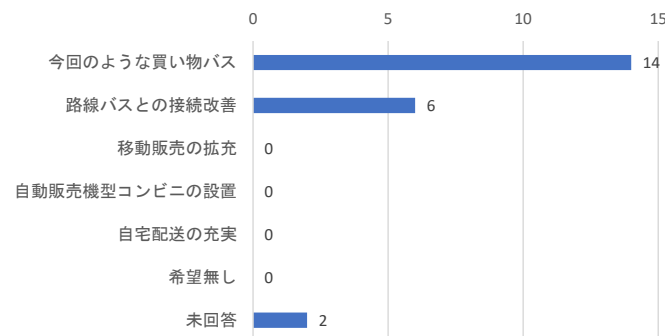


図4 今後望むサービス

### ■ ヒアリング調査（商業事業者）

- 取組自体に賛成。今後、協力金負担が必要ならば、その可否や程度は具体案を提示されてから判断
- 各食品スーパー等による既存の取組（移動販売等）との兼ね合いを考える必要あり
- 売上増よりもCSR（＝企業の社会的責任）の観点から協力したい

### ■ ヒアリング調査（交通事業者）

- タクシー利用には大きな影響なし、できることがあれば協力する
- 路線バス利用には大きな影響はなし、ただし、事業が継続すれば影響が出る可能性あり

## 7. 実施経費

- 実利用者数ベースで、**1人あたり輸送コストが約7,800円**に対して、店舗等での**1人あたりの利用金額が約4,700円**

### <実施経費等>

区分	概要	日あたりの運行経費 (①)	1人あたり輸送コスト (①/日平均実利用者数)	1人あたり利用金額	【参考】 年換算の運行経費 (①×104※1)
車両費	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 10人乗り車両</li> <li>• レンタカー</li> </ul>	25,300円/日	—	—	2,631,200円/年
燃料費	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 軽油</li> </ul>	1,500円/日	—	—	156,000円/年
人件費 (運転手)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運行事業者による 設定単価</li> </ul>	10,600円/日	—	—	1,102,400円/年
人件費 (補助員)	同上	9,500円/日	—	—	988,000円/年
合計	—	46,900円/日	7,816円/人※2	4,736円/人※3	4,877,600円/年

※1：週2回（月・木）運行の場合（年間104日とする場合）

※2：利用実績データから2路線を平均した1日あたりの実利用者数5.4人÷6人として計算。

46,900円/日÷6人/日=7,816円/人

※3：実証事業の利用実績

# 新郷実証



# 1. 登録状況

- 登録者数は120人（うち利用者数は86人）
- 登録者の年齢層は70代以上が全体の約88%
- 登録者のうち約38%が運転免許を未保有、未保有のうち17人が単身世帯
- 利用者のうち、リピーター（複数回利用者）は約85%

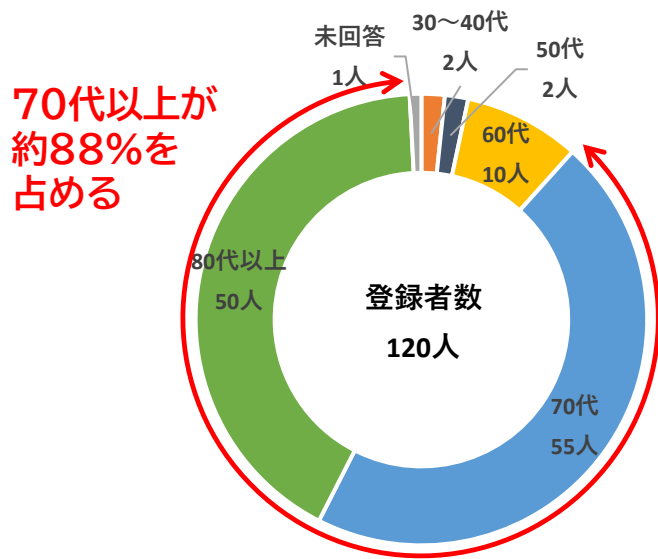


図5 登録者の年齢構成

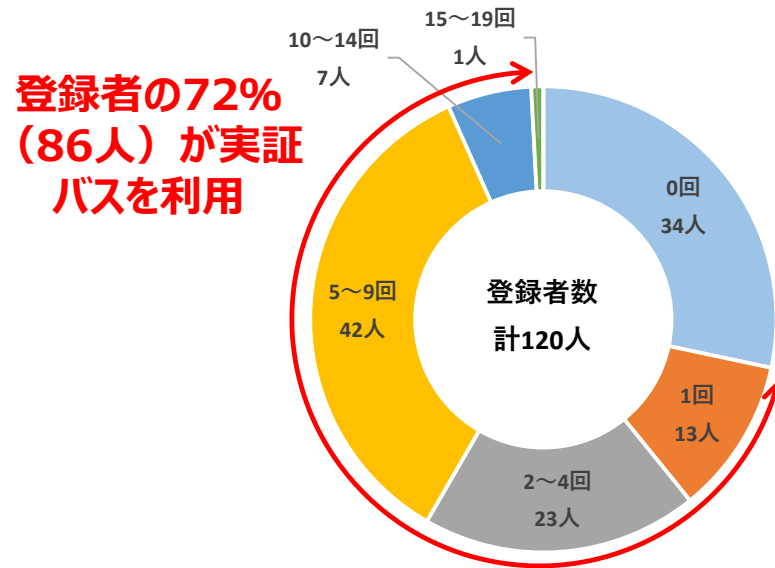


図6 登録者の利用回数



## 2. 実証バスの運行・利用状況

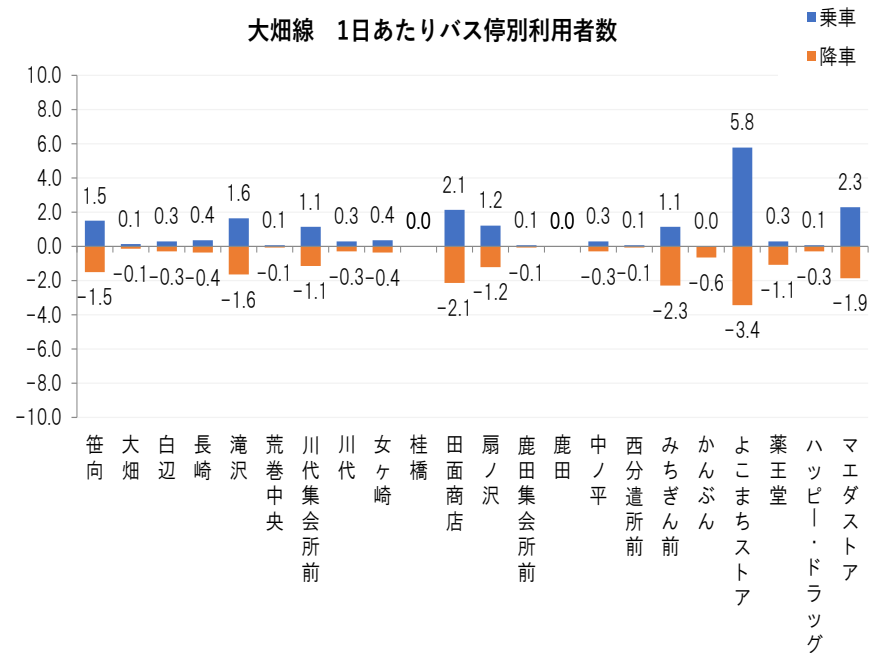
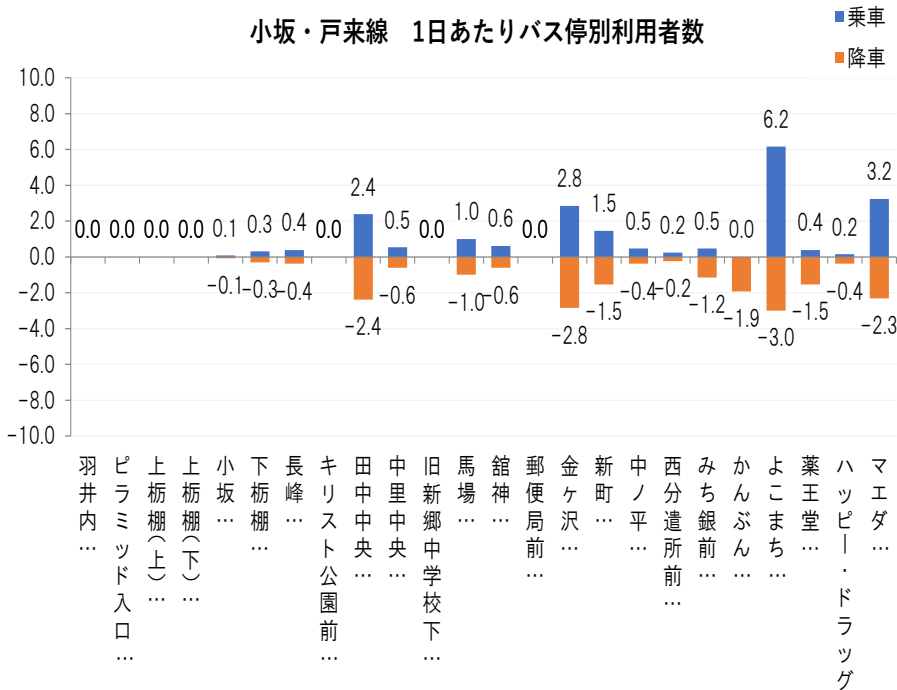
- **バスの運行日数は、合計68日、運休なし**  
(小坂・戸来線・西越中央線が各13日、椀ノ木線、浮口線、大畑線が各14日)
- **延べ利用者数は、436人。**  
(小坂・戸来線136人、大畑線135人、西越中央線65人、浮口線55人、椀ノ木線45人)
- **1日平均実利用者数は全体6.4人。**  
(小坂・戸来線10.5人、大畑線9.6人、西越中央線5.0人、浮口線3.9人、椀ノ木線3.2人)

表4 利用者数 (延べ・日平均)

区分	運行日数 ①	利用者数 (延べ) ②	利用者数 (日平均) ②÷①
小坂・戸来線	13日	136人	10.5人
椀ノ木線	14日	45人	3.2人
浮口線	14日	55人	3.9人
大畑線	14日	135人	9.6人
西越中央線	13日	65人	5.0人
合計	68日	436人	6.4人

### 3. 利用者の動向・買い物の動向

- バス停別の利用者数は、村内では「金ヶ沢」など、**村の中心での利用が多く、郊外部での利用は少ない傾向**
- 五戸町では「よこまちストア」や「マエダストア」での**乗車・降車が多い**
- **買い物品目では、「生鮮食品」が最も多く、利用金額の64.3%を占める**



## 4. 店舗別利用者数

- 店舗別延べ利用者数は、多い順で、よこまちストア（280人）、マエダストア（104人）、薬王堂（102人）
- 1日あたりの利用者数（3か月平均）は多い順で、よこまちストア（4.1人）、マエダストア（1.5人）、薬王堂（1.5人）

表5 店舗別利用者数

店舗名	計（68回運行）	3か月平均
よこまちストア	280人	4.1人
マエダストア	104人	1.5人
薬王堂	102人	1.5人
その他	85人	1.3人
五戸商店街	63人	0.9人
かんぶん	54人	0.8人
ハッピードラッグ	13人	0.2人

## 5. 実証参加者の感想

### <実証参加者の感想>

利用者	・買い物もちろんだが、 <u>バスの中の会話が楽しい</u> 。これからも利用したい。
	・自分で買い物ができて、 <u>新鮮なものを買えてこれ以上の幸せがない</u> 。
	・ <u>最近まで運転していたが免許を返納したので、買い物バスがあるとありがたい</u> という声が聞かれる。このような人が今から増えてくると思うので、自分も含め必要性はあると思う。
	・ <u>有料でも乗りたい</u> 。月1回でもいいから運行して欲しい。
商業施設	・売上の面では、単価が1万円程度あるとよい。 <u>従業員においては特に負担や問題はなかった</u> 。
	・引き続き協力する。現時点で明確なイメージは持てないが、出資金は変動式がよいと考える。
	・協力可能だが、協力金の出資は実績を踏まえると現段階では難しい。提案に対する検討は行いたい。 <u>買い物バスに協賛企業名を掲示してはどうか</u> 。
運行事業者	・冬場の運行であるため、 <u>時間通りに到着して利用者を待たせないように心掛けた</u> 。
	・車内の事故防止のため、確実に利用者が着席してから発車するようにした。
	・事故を起こさずに運行でき、役目を果たせたと考えている。



# 6. アンケート・ヒアリング結果

## ■ アンケート調査結果

- 買い物バスで良かった点は、1位「直通移動ができる」、2位「運動や気分転換」、3位「自分の都合でお出かけができる」
- 今後望むサービスは、1位「今回のような買い物バス」、2位「路線バスとの接続改善」、3位「移動販売の拡充」

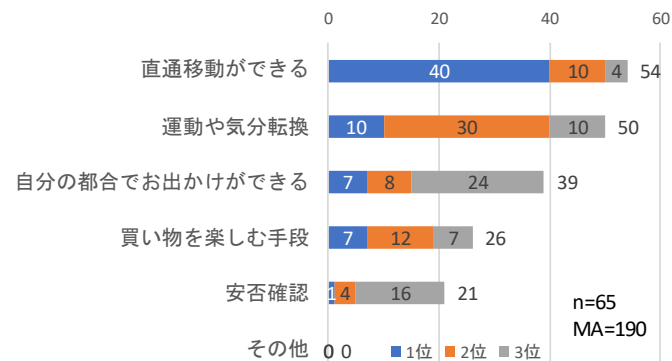


図7 買い物バスの利用で感じた良かった点

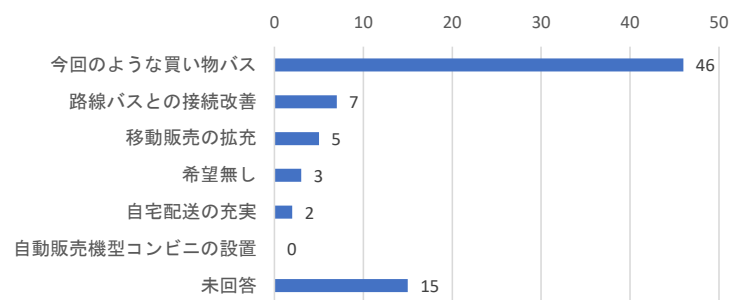


図8 今後望むサービス

## ■ ヒアリング調査（商業施設） ※多く挙げられた意見

- 取組自体に賛成。今後、協力金負担が必要ならば、その可否や程度は具体案を提示されてから判断
- 各食品スーパー等による既存の取組（移動販売等）との兼ね合いを考える必要あり
- 売上増よりもCSR（=企業の社会的責任）の観点から協力したい

## ■ 既存サービスへの影響

- コミュニティバス等の利用者数に大きな影響なし、村有車両の空き時間は活用可能
- 路線バスの利用者数が15～23%減少、移動サービス全体での検討が必要

## 7. 実施経費

- 実利用者数ベースで、1人あたりの輸送コストは**約8,200円/人**に対して、店舗等での1人あたりの利用金額は**約5,500円/人**。

### <実施経費等>

区分	概要	日あたりの運行経費 (①)	1人あたり輸送コスト (①/日平均実利用者数)	1人あたり利用金額	【参考】 年換算の運行経費 (①×260※1)
車両費	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 29人乗り車両</li> <li>• レンタカー</li> </ul>	20,200円/日	—	—	5,252,000円/年
燃料費	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 軽油</li> </ul>	1,900円/日	—	—	49,400円/年
人件費 (運転手)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運行事業者による 設定単価</li> </ul>	20,000円/日	—	—	5,200,000円/年
人件費 (補助員)	同上	10,000円/日	—	—	2,600,000円/年
運行・整備 管理費	同上	5,000円/日	—	—	1,300,000円/年
合計	—	57,100円/日	約8,200円/人※2	約5,481円/人※3	14,846,000円/年

※1：週5回（月～金）運行、祝日運行の場合（年間260日とする場合）

※2：利用実績データから5路線を平均した1日あたりの実利用者数6.4人÷7人として計算。

$57,100\text{円/日} \div 7\text{人/日} = 8,157\text{円/人} \approx 8,200\text{円/人}$

※3：実証事業の利用実績

# IV. 効果・課題 (八戸・新郷実証)



# 1. 実証による効果

## ①利用者・対象地域の視点

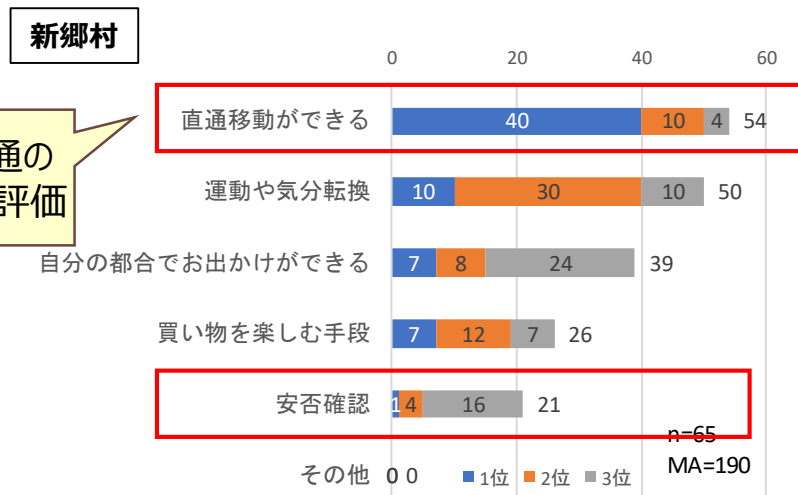
- 新たな買い物手段の創出
- 利用者の健康維持や地域のコミュニティ活性化への寄与



図9 おでかけバス・路線バスの運行経路

### ■バス車内の雰囲気に対する利用者の意見

- 近所の人と情報交換しながら行けるので楽しい。
- 車内ではお互いに情報交換している。
- 車内の会話が楽しくて、買い物がなくても乗りたくなる。
- 買い物に毎週行けるのがありがたい。
- みんなに会えるのを楽しみにしている。



五戸町への直通の移動手段が高評価

図10 買い物バスの利用で感じた良かった点

### ■バス車内の雰囲気に対する利用者の意見

- 同じ集落にいてもおしゃべりすることがなかったので、楽しく過ごすことが出来てよかった。
- あんべ号がこんなに楽しくてびっくりした。会話することが大変良い。
- 買い物もちろんだが、みんなと話がしたくて利用した。



# 1. 実証による効果

## ② 協力店舗の視点

- 顧客数や売上の促進
- CSR（＝企業の社会的責任）を果たすことによる企業イメージの向上

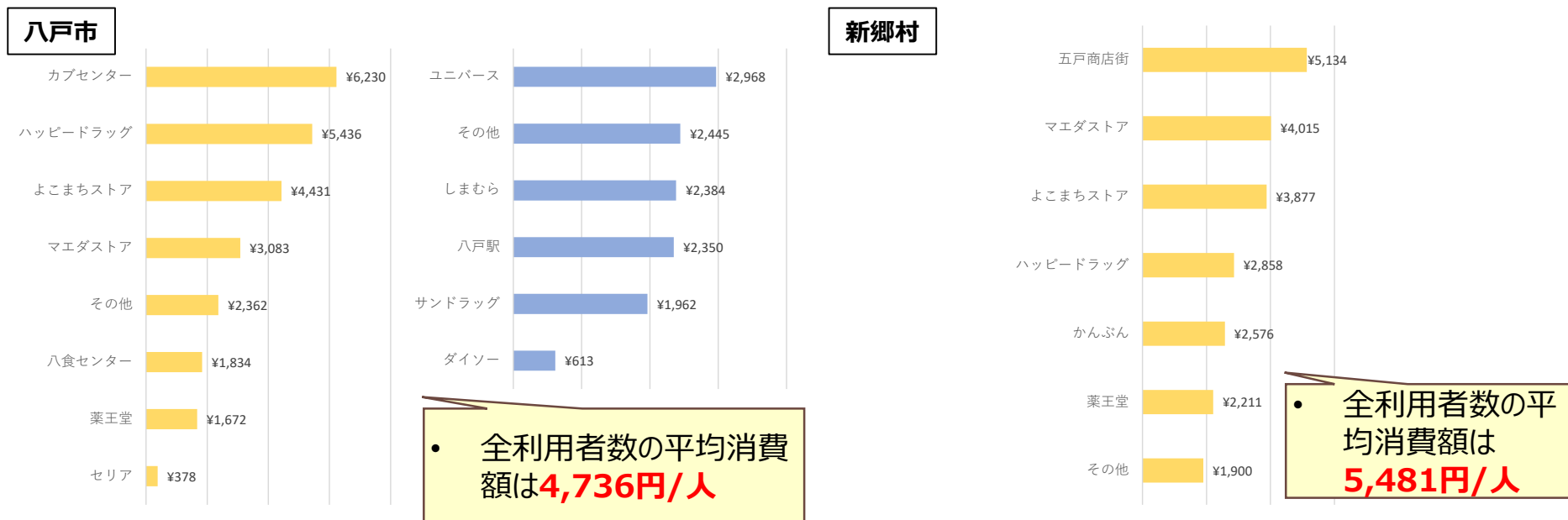


図11 店舗別1人平均消費額（左：駅周辺、右：ニュータウン）

図12 店舗別1人平均消費額

### ■ 実証に対する商業施設の意見（八戸・新郷共通）

- 地域貢献のために参加した。
- 地域のお客様に来店していただくことが、企業の発展に繋がると考えている。
- 利用したお客様も、事業に対して好意的な意見が多く、取り組みの意義を感じた。
- 企業間や行政との協働によって取り組むことによって、事業の持続性が高まるのではないかと。

# 1. 実証による効果

## ③ 地元自治体の視点

- 住民が望むサービスの内容とコストの可視化
- 地域の多様な関係者によるネットワークの構築と各者の意向把握

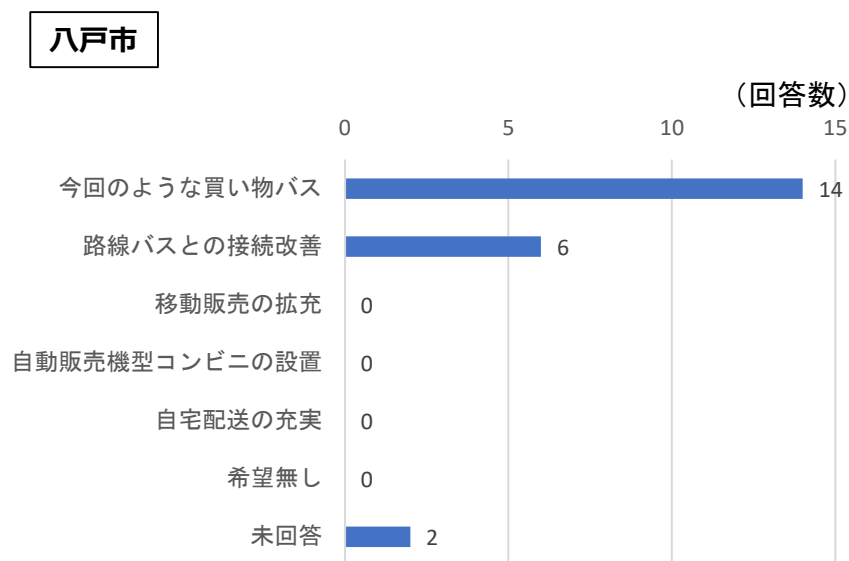


図13 今後希望する買い物支援サービス

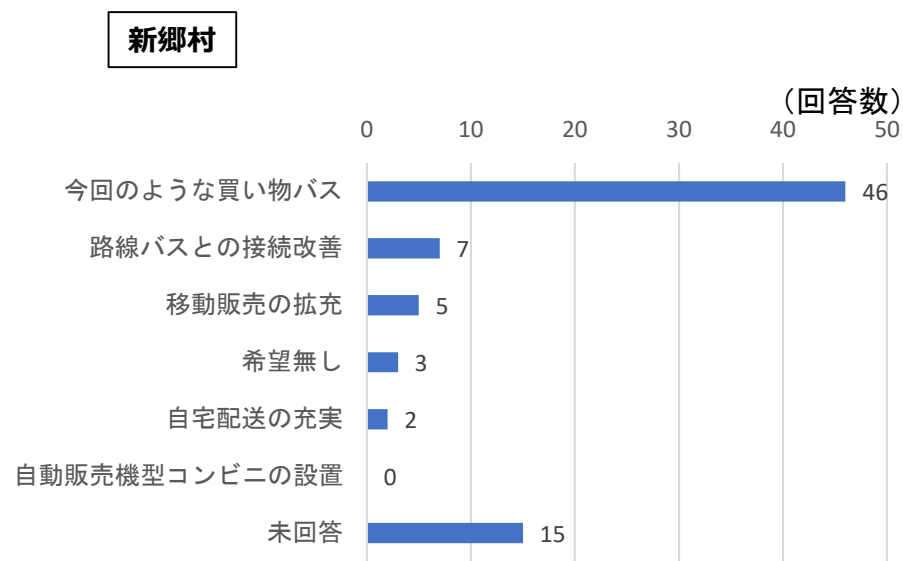


図14 今後希望する買い物支援サービス

## 2. 今後の課題

### 利用者満足度と事業採算性の両立

- 利用者満足度と事業採算性の両立には、コストに対しての満足度を最大限高めることが重要
- 地域住民に望まれるサービスとコストとのバランスを考慮しながら、地域の実情に応じてサービス内容を組み立てることが必要
- コスト面では、利用可能な資源を活用しながら経費を圧縮しつつ、利用の維持・拡大や補助金の活用など財源の確保等を検討することが重要

#### 【イメージ】

支出（コスト）	サービス内容	収入（財源）
【変動費】 ・ 燃料費 など 【固定費】 ・ 人件費 ・ 車両費 など		バス運賃
		補助金
		Cスーパー協力
		Bスーパー協力
		Aスーパー協力

支出（コスト）側には「圧縮」の青い矢印が示されています。サービス内容側には「利用拡大」と「満足度アップ」の赤い矢印が示されています。収入（財源）側には「確保」の黄色い矢印が示されています。

## 2. 今後の課題

### 利用者満足度と事業採算性の両立

- 今回の実証結果からコスト構造を推定する
- コストのうち**固定費の占める割合が高い**ことから、運行回数や収入が少なくても、一定の費用が発生し続けるため、事業の継続のためには、**利用者の維持・拡大や継続的な財源の確保が必要**
- また、変動費の占める割合は低いことから、**車両等の資源をフル活用しつつ、地域の実情に応じた満足度の高いサービスを展開し、新たな収入を確保していくことも検討**
- 実証においては、車両費が約50%を占めていることから、活用可能な車両が確保できる場合は、事業採算性は高まる

	支出（コスト）	収入（財源）
【変動費】	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 燃料費【約3%】</li><li>・ 人件費（補助員）【約20%】</li><li>・ 人件費（運転手）【約28%】</li></ul>	<p>コストを100とした場合の収入の割合</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 八戸実証では約27%</li><li>・ 新郷実証では約22%</li></ul> <p>※バス運賃：往復1,000円×乗車人数 （八戸6人、新郷10人）で想定</p> <p>※スーパーからの協力金：120,000円×6社で想定</p>
【固定費】	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 車両費【約50%】</li></ul>	



### 3. 検討を進める上での留意点

#### ① 既存のサービスとの共存（公共交通・買い物サービス）

- **既存の公共交通サービスへの影響に留意し、既存サービスの活用なども含めて、関係者と協力しながら検討を進めることが必要**
- 八戸市では既存のサービスの活用の可能性も視野に、サービス内容の検討が必要
- 新郷村ではコミュニティバス等と路線バスへの影響に留意し、ネットワーク全体での検討が必要
- 移動販売の利用を「やめた」、「減った」と回答した割合が市・村ともに2割程度存在
- **買い物バスを利用できない住民にとって、移動販売は重要なサービスのため、共存に向けた検討が必要**

#### ② 各行政の交通政策との整合

- 市・村を含めた八戸圏域（8市町村）では、市内の公共交通を始めとした移動支援に対する基本的な方針として、「八戸圏域地域公共交通計画」（法定計画）を策定
- 八戸市では、「育てる交通」の考えに基づき、地域と連携した方策の検討が必要
- 新郷村では、域内交通の利便性向上と合わせた検討が必要

# V. 今後の方策案

## 八戸実証



# 1. 方策案の概要

## ■ 基本的な考え（案）

- ①地域特性に応じた効率性が高く、持続性の高い移動手段の確保
- ②主要な乗り継ぎ拠点である「八戸駅」やその周辺までの移動手段の確保
- ③地域・行政・企業等の協働による運営体制の構築

## ■ 具体的な方策

### 方策案 1：ミニмум版おでかけ号（「おでかけ号」のコンパクト化）

- ・ 実証事業と同様の、決まった時間・経路を運行する**乗合交通**の移動サービスを提供
- ・ 運行回数や補助員配置の見直しによる、**運行効率性を高めた移動サービス**
- ・ 車両は、地域の道路特性等を考慮し、**小回りの利くタクシー車両を想定**

### 方策案 2：予約型の移動サービス

- ・ 利用者の要求に応じ（オンデマンド型）、**予約があった場合のみ運行する移動サービスを提供**
- ・ **予約があった時の運行につき、コストメリットが期待できる** ※相乗りの調整は利用者側で行う
- ・ 車両は、地域の道路特性等を考慮し、**小回りの利くタクシー車両を想定**

## 2. 方策案① ミニマム版おでかけ号

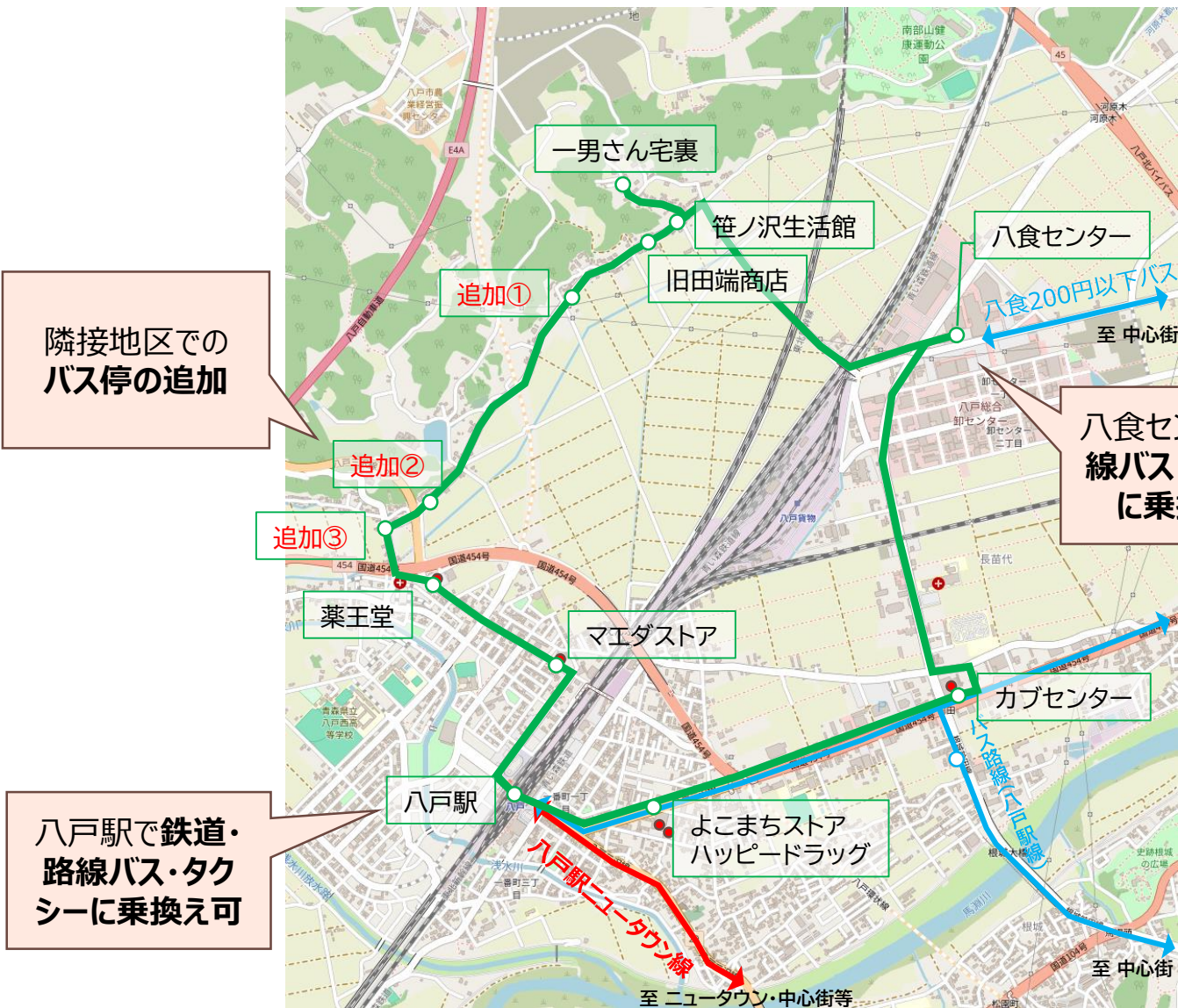
### <方策案①の概要>

区分	項目	方策案①	実証事業
運行方法	対象エリア	笹ノ沢地区+周辺地域（張田地区など）	笹ノ沢地区
	運行形態	定時・定路線の乗合型交通 ※バス停を設置	定時定路線型
	運行区間	対象エリア ⇔ 八戸駅・各商業施設	笹ノ沢地区 ⇔ 八戸駅・各商業施設
	運行回数	週1回、1日3往復	1路線あたり、月曜日／木曜日（毎週）＋土曜日（月1回）
	運賃	有償 ※値段設定は要協議	無料
	車両	タクシー車両を活用	10人乗り車両（レンタカー）
	補助員	あり	あり
運営	体制	R5実証事業をベースとした協議会	P.7に記載の体制
	財源	地域・行政・企業等の協力金など ※例）地域の世帯ごとの協力金、国の運行補助金、市の運行支援金、企業の協力金、など	県事業
	根拠となる法制度	道路運送法第4条 一般乗合旅客自動車運送事業	無償のため許認可不要
	交通事業者	上記事業免許を有する事業者	東北医療福祉事業協同組合



## 2. 方策案① ミニマム版おでかけ号

### 運行イメージ



### 【停車順（行き）】

1. 一男さん宅裏
2. 笹ノ沢生活館
3. 旧田端商店
4. 追加①
5. 追加②
6. 追加③
7. 薬王堂
8. マエダストア
9. 八戸駅
10. よこまちストア・ハッピードラッグ
11. カブセンター
12. 八食センター
13. 一男さん宅裏
14. 笹ノ沢生活館
15. 旧田端商店



## 2. 方策案① ミニマム版おでかけ号

### 運行経費の試算

項目	方策案①	実証事業（実績）
運行に係る経費 （①）	<p><b>1か月126,000円</b></p> <p>【基礎条件】            A.時間当たりの運行単価 4,500円/時間            ※車両費・燃料費・人件費含む（当社の実績）            B.1日あたりの総運行時間：7.0時間            ※待機時間など含む            C.月当たりの運行回数：4日/月（週1日×4週）            【経費の計算】            ・<math>A \times B \times C = 126,000</math>円/月            ※1日あたり換算：31,500円/日</p>	<p><b>1か月336,600円</b></p> <p>【基礎条件】            A.1日当たりの運行経費 37,400円/日            ※車両費25,300円・燃料費1,500円・人件費10,600円の合計（実証の実績）            B.月当たりの運行回数：9日/月            【経費の計算】            ・<math>A \times B = 336,600</math>円/月</p>
運行経費以外に係る経費 （②）	<p><b>1か月40,000円</b></p> <p>【基礎条件】            ・補助員の人件費：10,000円/日            【経費の計算】            ・<math>10,000</math>円/日×4日/月 = 40,000円/月</p>	<p><b>1か月85,500円</b></p> <p>【基礎条件】            ・補助員の人件費：9,500円/日            【経費の計算】            ・<math>9,500</math>円/日×9日/月 = 85,500円/月</p>
計（③ = ① + ②）	<p><b>1か月166,000円</b></p> <p>※<math>41,500</math>円×4日/月</p>	<p><b>1か月422,100円</b></p> <p>※<math>46,900</math>円×9日/月</p>
年間計	<p><b>年間1,992,000円</b></p> <p>※<math>41,500</math>円×48日/年</p>	<p><b>年間4,877,600円</b></p> <p>※<math>46,900</math>円×104日/年</p>

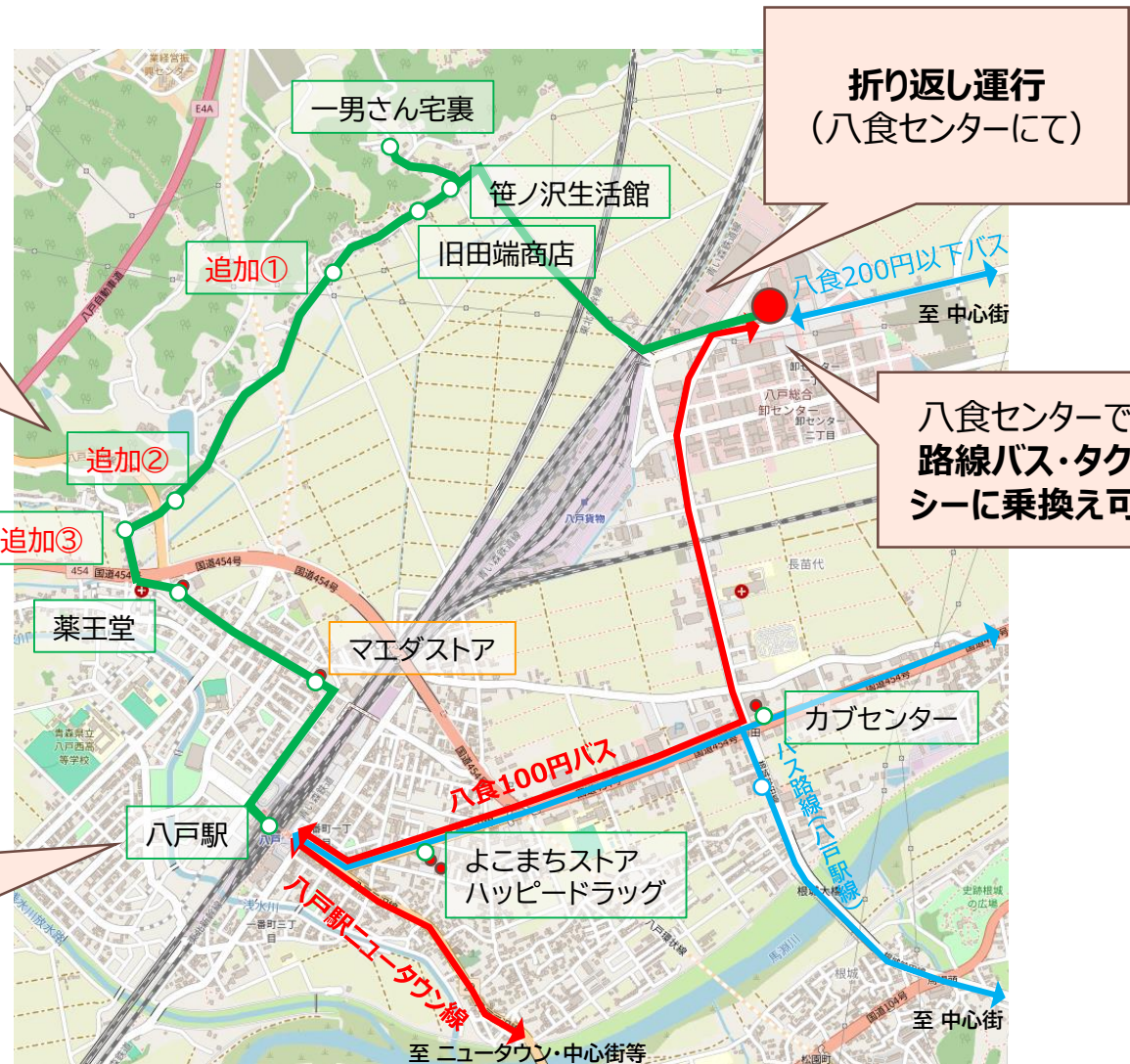
# (参考) 八食100円バスの活用案

- 方策案1をさらにコンパクトにして、八食100円バスを活用する案も考えられる
- 八戸駅・八食センターで路線バス・タクシー等へ乗り継ぎ

運行イメージ

隣接地区での  
バス停の追加

八戸駅で鉄道・  
路線バス・タク  
シーに乗換え可



折り返し運行  
(八食センターにて)

八食センターで  
路線バス・タク  
シーに乗換え可

- 【停車順 (行き)】
1. 一男さん宅裏
  2. 笹ノ沢生活館
  3. 八食センター
  4. 笹ノ沢生活館
  5. 旧田端商店
  6. 追加①
  7. 追加②
  8. 追加③
  9. 薬王堂
  10. マエダストア
  11. 八戸駅

## 2. 方策案② 予約型の移動サービス

### <方策案②の概要>

区分	項目	方策案①	実証事業
運行方法	対象エリア	笹ノ沢地区+周辺地域（張田地区など）	笹ノ沢地区
	運行形態	予約に応じて運行する乗合型交通（予約型乗合タクシー（区域運行））を運行	定時定路線型
	運行区間	対象地域内の自宅付近～八戸駅・八食センター間を運行 八戸駅～八食センター間は八食100円バス、 八戸駅～八戸ニュータウン間は八戸駅-ニュータウン線に乗り換えて移動	笹ノ沢地区 ⇔ 八戸駅・各商業施設
	運行回数	週1回、1日2往復（行き2便・帰り2便）	1路線あたり、月曜日/木曜日（毎週）+土曜日（月1回）
	運賃	有償 ※値段設定については要検討	無料
	車両	タクシー車両を活用（道路特性や移動ニーズ量を踏まえ）	10人乗り車両（レンタカー）
	補助員	あり	あり
	運営	体制	R5実証事業をベースとした協議会
財源		地域・行政・企業等の協力金など ※例）地域の世帯ごとの協力金、国の運行補助金、市の運行支援金、企業の協力金、など	県事業
根拠となる法制度		道路運送法第4条 一般乗合旅客自動車運送事業	無償のため許認可不要
交通事業者		上記事業免許を有する事業者	東北医療福祉事業協同組合



## 2. 方策案② 予約型の移動サービス

### 運行イメージ



### 利用方法イメージ

#### ①電話で予約



登録No.〇の「…(氏名)」です。  
●日の▲時の便で、自宅から八戸駅までの予約をしたいと思います。  
帰りは■時の便で、八戸駅から自宅まで乗ります。

「…(氏名)」さんこんにちは。  
●日の行き▲時の便と、帰りの■時の便の予約を受け付けました。



#### ②予約した日・便に自宅付近から目的地へ移動



「…(氏名)」さん、デマンドタクシーです。八戸駅まで運行します。

予約が重なってれば、他の利用者の方と乗り合って目的地まで移動します。



## 2. 方策案② 予約型の移動サービス

### 運行経費の試算

項目	方策案②	実証事業（実績）
運行に係る経費 （①）	<p><b>1か月72,000円</b> 【基礎条件】</p> <p>A.時間当たりの運行単価 4,500円/時間 ※当社実績、車両費・燃料費・人件費含む</p> <p>B.1日あたりの総運行時間：4.0時間 ※待機時間など含む</p> <p>C.月当たりの運行回数：4日/月 (週1日×4週)</p> <p>【経費の計算】</p> <p>・<math>A \times B \times C = 72,000</math>円/月 ※1日あたり換算：18,000円/日</p>	<p><b>1か月336,600円</b></p> <p>【基礎条件】</p> <p>A.1日当たりの運行経費 37,400円/日 ※車両費25,300円・燃料費1,500円・人件費10,600円の合計（実証の実績）</p> <p>B.月当たりの運行回数：9日/月</p> <p>【経費の計算】</p> <p>・<math>A \times B = 336,600</math>円/月</p>
運行経費以外に係る経費 （②）	<p><b>1か月68,800円</b> 【基礎条件】</p> <p>・補助員の人件費：10,000円/日 ・予約受付の人件費：7,200円/日 ※青森県の最低賃金898円×8時間<math>\div</math>7,200円</p> <p>【経費の計算】</p> <p>・<math>(10,000</math>円/日<math>+7,200</math>円/日)<math>\times</math>4日/月<math>=68,800</math>円/月</p>	<p><b>1か月85,500円</b></p> <p>【基礎条件】</p> <p>・補助員の人件費：9,500円/日</p> <p>【経費の計算】</p> <p>・<math>9,500</math>円/日<math>\times</math>9日/月<math>=85,500</math>円/月</p>
計（③=①+②）	<p><b>1か月140,800円</b> ※35,200円<math>\times</math>4日/月</p>	<p><b>1か月422,100円</b> ※46,900円<math>\times</math>9日/月</p>
年間計	<p><b>年間1,689,600円</b> ※35,200円<math>\times</math>48日/月</p>	<p><b>年間4,877,600円</b> ※46,900円<math>\times</math>104日/年</p>



# 新郷実証



# 1. 方策案の概要

## ■ 基本的な考え（案）

- ① 村民生活の維持に向けて五戸町等へ移動可能な手段を確保
- ② 村内にある既存の車両リソースを活用し、効率的な運行方法を検討
- ③ 村や町、各事業者の役割分担を踏まえた持続性の高い運営方法を検討

## ■ 具体的な方策

### 方策案 1：五戸町等への直通移動サービスの展開

（実証運行の運行方法を踏襲し、運行見直しによる経費の圧縮）

- ・ 村内の各集落から五戸町等への直通運行
- ・ 利用実態に応じた路線の統合
- ・ 定時定路線型運行と予約型運行を組み合わせた効率的な運行を実施
- ・ ダイヤ・運賃の再設定

### 方策案 2：既存交通サービスの割引

（既存の公共交通の活用・役割分担）

- ・ 乗り継ぎダイヤ・場所の再設定
- ・ 路線バスの運賃に対する割引

## 2. 方策案① 五戸町等への直通移動サービス

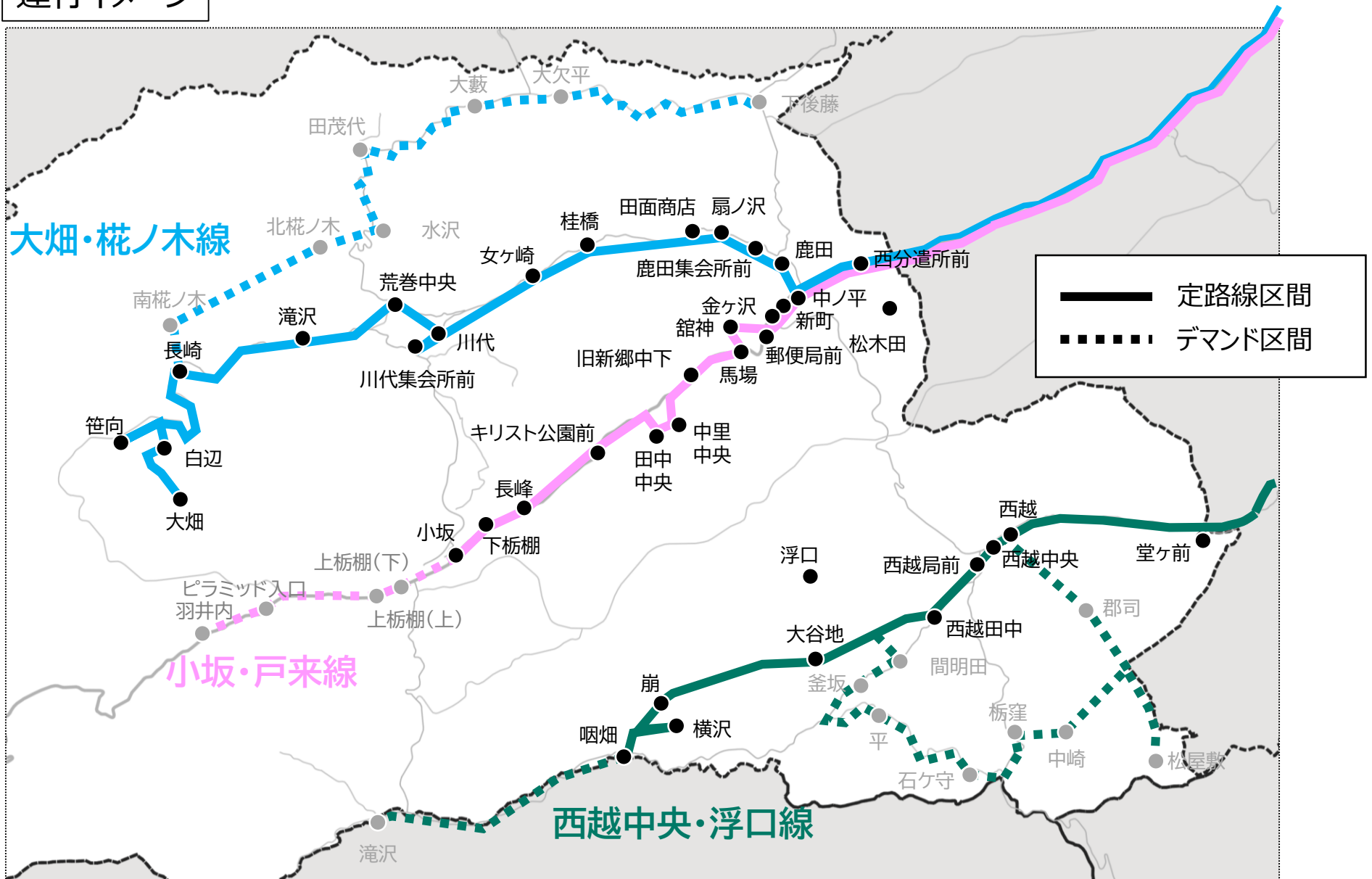
- 前頁の方策の概要及び課題への対応案を踏まえた、見直し案は以下のとおり

### <方策案①の概要>

区分	項目	方策案①	実証事業
運行方法	対象エリア	新郷村全域	新郷村全域
	運行形態	<b>定路線＋迂回ルートデマンド型</b> ※詳細は後述	定時定路線型
	運行区間	<b>3路線</b> （①椈ノ木・大畑線、②小坂・戸来線、③西越中央・浮口線） ※③は三戸町方面への運行を要検討	5路線（①椈ノ木線、②大畑線、③小坂戸来線、④西越中央線、⑤浮口線） ※全路線が新郷村～五戸町間を運行
	運行回数	<b>各路線週1回（計週3日）</b>	各路線週1回（計週5回）＋隔週土曜日運行、1日1往復
	運賃	<b>有償</b> ※値段設定は要協議	無償
	車両	<b>村所有の車両を活用</b>	29人乗り車両（レンタカー）
	補助員	あり	あり
運営	体制	R5実証事業をベースとした協議会	P.7に記載の体制
	財源	<b>地域・行政・企業等の協力金など</b> ※例）地域の世帯ごとの協力金、国の運行補助金、市の運行支援金、企業の協力金、など	県事業
	根拠となる法制度	道路運送法第4条 一般乗合旅客自動車運送事業 or 道路運送法第79条 自家用有償旅客運送事業	無償のため許認可不要
	交通事業者	上記に対応可能な事業者	千葉貨物運輸

## 2. 方策案① 五戸町等への直通移動サービス

### 運行イメージ



## 2. 方策案① 五戸町等への直通移動サービス

### 定路線 + 迂回ルートデマンド型のイメージ

- 定路線型をベースに、予約に応じて所定のバス停まで迂回させる運行方式。



図 運行イメージ

#### ※大畑・栲ノ木線を例とした運行のイメージ

- 笹向～マエダストア五戸店の区間は、定時定路線（決まった時間に決まった経路）で運行。
- 下後藤～南栲ノ木については、事前に予約があった場合に、**予約があった区間のみ運行**。
- 例えば、「大藪」と「北栲ノ木」から予約があれば、デマンド区間は**そのバス停のみ停車**し、その他のバス停は停車しない。
- デマンド区間の住民は**事前に予約が必要**であるが、定時定路線区間の住民は**事前予約が不要**。

表 大畑・栲ノ木線のダイヤイメージ

区間	No.	バス停	発車時刻	
デマンド区間	1	下後藤	8時台 (概ね 8:30～ 9:00)	
	2	大欠平		
	3	大藪		
	4	田茂代		
	5	水沢		
	6	北栲ノ木		
	7	南栲ノ木		
定時定路線区間	8	笹向	9:00	
	9	大畑	9:05	
	10	白辺	9:07	
	11	長崎	9:11	
	12	滝沢	9:14	
	13	荒巻中央	9:18	
	14	川代集会所前	9:21	
	15	川代	9:22	
	16	女ヶ崎	9:25	
	17	桂橋	9:26	
	18	田面商店	9:29	
	19	扇ノ沢	9:30	
	20	鹿田集会所前	9:31	
	21	鹿田	9:32	
	22	中ノ平	9:33	
	23	西分遺所前	9:35	
			(倉石温泉：トイレ休憩)	
	24	みちのく銀行五戸中央支店	9:58	
	25	かんぶん五戸店	10:00	
	26	よこまちストア五戸店	10:01	
	27	薬王堂青森五戸店	10:02	
	28	ハッピー・ドラッグ青森五戸店	10:03	
29	マエダストア五戸店	10:04		

#### ①電話で予約



登録No.〇の「…（氏名）」です。

●日に、「水沢」から乗車します。  
帰りも、同じバス停で降ります。

「…（氏名）」さんこんにちは。  
●日の行き▲時の便と、帰りの  
■時の便の予約を受け付けました。



#### ②予約した日にバス停から乗車



今日は「水沢」から  
〇〇さんが乗車予定のため、停車します。



## 2. 方策案① 五戸町等への直通移動サービス

### 運行経費の試算（実証事業実績との比較）

項目	方策案①	実証事業（実績）
運行に係る経費（①）	<p><b>1か月262,800円</b></p> <p>【基礎条件】            A.1日あたりの運行経費 21,900円/日            ※燃料費・人件費の計（村有車両を活用のため車両費・管理費は無し）            B. 月当たりの運行回数：12日/月（週3日×4週）            【経費の計算】            ・A×B=262,800円/月            ※1日あたり換算：21,900円/日</p>	<p><b>1か月1,083,300円</b></p> <p>【基礎条件】            A.1日当たりの運行経費 47,100円/日            ※車両費・燃料費・人件費・管理費の計            B.月当たりの運行回数：23日/月            【経費の計算】            ・A×B=1,083,300円/月</p>
運行経費以外に係る経費（②）	<p><b>1か月206,400円</b></p> <p>【基礎条件】            ・補助員の人件費：10,000円/日            ・予約受付の人件費：7,200円/日            ※青森県の最低賃金898円×8時間÷7,200円            【経費の計算】            ・（10,000円/日+7,200円/日）×12日/月=206,400円/月</p>	<p><b>1か月230,000円</b></p> <p>【基礎条件】            ・補助員の人件費：10,000円/日            【経費の計算】            ・10,000円/日×23日/月=230,000円/月</p>
計（③=①+②）	<p><b>1か月469,200円</b>            ※39,100円×12日</p>	<p><b>1か月1,313,300円</b>            ※57,100円×23日</p>
年間計	<p><b>年間5,630,400円</b>            ※39,100円×144日</p>	<p><b>年間14,846,000円</b>            ※57,100円×260日</p>

# 3. 方策案② 既存交通サービスの割引

- 方策の概要を踏まえた、見直し案は以下のとおり

## <方策案②の概要>

項目	概要
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス（みずばしょう号）と路線バスとの乗継ダイヤの設定</li> <li>※既存の移動サービスを活用</li> <li>・一部経路の変更による乗継場所の設定（新郷村役場を想定）</li> <li>・路線バスの運賃に対する割引の実施</li> <li>※右図の乗継乗車券と同様の割引金額であれば200円割引（新郷～五戸間が320円に）</li> </ul>
利用のイメージ	<p><b>【利用者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村が利用証明書を発行し、利用者へ配布</li> <li>・利用者はみずばしょう号から路線バスへ乗り継ぎ、路線バスから降車する際に乗務員へ証明書を提示し、指定運賃を（割引金額）を支払う</li> <li>※帰りも同様</li> </ul> <p>※あるいは、新郷村⇄八戸市乗継乗車券の（右図）のように、事前販売の方法も考えられる。（事前に所定の場所での購入が必要）</p> <p><b>【事業者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証明書の利用者数をカウントし、正規運賃との差額を整理</li> <li>・差額分を村などへ請求（財政負担の主体は現時点では未定）</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設と連携し、証明書の提示による利用者への特典付与なども考えられる。</li> </ul>

通常、新郷～五戸間520円、五戸～八戸間520円、計1,040円のところ、840円（200円割引）で利用可能に

新郷村 ⇄ 八戸市 指定路線内限定  
乗継乗車券の取扱いについて

この乗車券は金ヶ沢線・西越線と八戸線を五戸町内で乗り継いで利用する、新郷⇄八戸間の片道分の乗車券です。  
事前に各路線の運行時刻をお確かめのうえご購入ください。

《新郷村 ⇄ 八戸市 指定路線》  
金ヶ沢線沿線 ⇄ 五戸町内指定区間で乗換え ⇄ 八戸線（扇田経由／高館経由）沿線  
西越線沿線 ⇄ 五戸町内指定区間で乗換え ⇄ 八戸線（扇田経由／高館経由）沿線

●価格と販売方法  
 ・大人840円、小児420円  
 ※身障割引等はありません。（現金で運賃半額の方がお安い）  
 ・窓口とバス車内で販売いたします。一度に何枚でもご購入できます。  
 ○販売窓口  
 五戸営業所  
 八戸営業所、ラピアトラベルカウンター、はっち、観光プラザ  
 ○車内販売  
 上記路線を運行する車両

●払戻について  
 ・未使用券に限り払戻をいたします。その際手数料100円を差し引きます。  
 ○払戻窓口  
 五戸営業所、八戸営業所、ラピア、はっち、観光プラザ

図 新郷村⇄八戸市乗継乗車券（南部バス）

### 3. 方策案② 既存交通サービスの割引

#### 運行経費の試算（実証事業実績との比較）

項目	概要	実証事業（実績）
割引に係る経費（①）	<p><b>1か月70,000円</b></p> <p>【基礎条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行経費（追加）：なし ※みずばしょう号・南部バスの現状の経費への追加は無い</li> <li>・割引額200円（※1）</li> </ul> <p>※1：新郷⇔八戸乗継乗車券と同様の割引金額と仮定（新郷～五戸間320円で移動可能）</p> <p>【経費の計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・割引額200円×7人（※2）×2回（往復）×25日（※3）=70,000円/月</li> </ul> <p>※2：1日あたりの実利用者数の実績値6.4人≒7人</p> <p>※3：みずばしょう号は日曜運休のため、月～土の日数をカウント</p>	<p><b>1か月1,083,300円</b></p> <p>【基礎条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A.1日当たりの運行経費 47,100円/日</li> <li>※車両費・燃料費・人件費・管理費の計</li> <li>B.月当たりの運行回数：23日/月</li> </ul> <p>【経費の計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A×B=1,083,300円/月</li> </ul>
割引以外に係る経費（②）	※特になし	<p><b>1か月230,000円</b></p> <p>【基礎条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助員の人件費：10,000円/日</li> </ul> <p>【経費の計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10,000円/日×23日/月=230,000円/月</li> </ul>
計（③=①+②）	<p><b>1か月70,000円</b></p> <p>※2,800円×25日</p>	<p><b>1か月1,313,300円</b></p> <p>※57,100円×23日</p>
年間計	<p><b>年間840,000円</b></p> <p>※2,800円×300日</p>	<p><b>年間14,846,000円</b></p> <p>※57,100円×260日</p>

## 4. 財源確保の方策（両実証地域共通）

- 利用者からの運賃や協力金、補助金が想定され、支出の条件等を踏まえた選択が必要

### ＜財源確保の方策＞

区分	概要
運賃 (利用者)	1回の利用当たり100円～500円以上 ※アンケート調査結果より
協力金 (企業・行政)	<b>①定額の協力金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月あたりの定額の協力金を設定（例えば、1口/10,000円など）</li> <li>・口数に応じて特典を変化させて、多いほどスポンサーの情報を多く発信</li> </ul> <b>②指標に基づき変動する協力金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス利用者数や店舗来店者数などの月あたりの量に応じて協力金を設定 (例えば、利用者1人×100円など)</li> </ul>
協力金 (地域)	<b>①世帯協力金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1世帯あたりの定額の協力金を設定（例えば、1世帯500円など）</li> </ul> <b>②個人協力金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の任意による定額の協力金を設定</li> <li>・協力金の支払いにより割引やその他特典等が受けられる、など</li> </ul>
補助金	<b>①国庫補助金（国土交通省）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定の要件を満たすことで赤字の1/2を補助（地域内フィーダー系統補助）</li> </ul> <b>②補助金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用可能な補助制度がある場合</li> </ul>

# VI. まとめ

## 八戸実証・新郷実証





# 1. 今回実証のまとめ

## 実証実施までの経緯

- 今回実証地域（八戸市笹ノ沢・新郷村）は、令和4年度における実態調査結果や県内全市町村からの希望を踏まえ、食品スーパー等で構成する研究会による協議・検討を経て決定
- 買い物支援は、現状、様々な形態が行われているが、その多くにおいて実施主体の民間移行の傾向が拡大しているが、買い物バスによる支援は事業採算性などの課題から行政が主体となる傾向がある
- 利用者のため、より多くの選択肢の提供や持続可能な取組が重要との認識の下、地域住民と事業者との新たな連携の構築と、食品スーパー等への送迎による買い物支援の検討・実証を実施

# 1. 今回実証のまとめ

## 実証により確認された効果・課題

### (1) 効果

#### 利用者・対象地域

- ・新たな買い物手段の創出（週1回・直通・タクシーより安価）
- ・利用者の健康維持（運動・会話）、コミュニティ機能の活性化（声掛け・安否確認等）

#### 協力店舗

- ・来店客数や売上の促進
- ・CSRを果たすことによる企業イメージの向上
- ・マーケティングへの反映

#### 地元自治体

- ・住民が望むサービスの内容とコストの可視化
- ・地域の多様な関係者によるネットワークの構築と各者の意向把握

### (2) 課題

利用者満足度と事業採算性の両立

# 1. 今回実証のまとめ

## 実証結果によるモデル化と検討のポイント

モデル	公共交通空白地域対応モデル (例：八戸市笹ノ沢地区)	商業施設等空白地域対応モデル (例：新郷村)
地域特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の行き届いていない</li> <li>比較的近隣に商業施設や交通結節点がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね公共交通が維持されているが、域内の商業施設等の廃止・撤廃により、買い物等には広域移動が必要</li> </ul>
住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通手段の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利便性の高い広域移動手段</li> </ul>
買い物環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動手段のない場合は基本的に徒歩移動</li> <li>最寄りの商業施設まで徒歩圏外（遠い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品の購入が域内では難しく、隣町までの越境（広域移動）が必要</li> </ul>
交通環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通なし（遠い）</li> <li>最寄りの交通結節点まで徒歩圏外（遠い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティバスは域内のみ運行</li> <li>広域移動には他バスへの乗継ぎが必要</li> </ul>
支援体制	住民、商業者（スーパー・ドラッグ・ホームセンター等）、交通事業者（バス・タクシー）、行政（政策・交通・商業）、関係団体（商工会・社協）、アドバイザー	
支援内容	買い物バス（無料・直通）による送迎 [運行体制] 運行管理者（兼 運行主体）・運転手・補助員	

# 1. 今回実証のまとめ

## 実証結果によるモデル化と検討のポイント

検討のポイント	
住民ニーズ	住民の困り事、望む支援・サービス内容等の把握
買い物環境	買い物先までのアクセス（距離、移動手段・時間等）や既存買い物支援サービスの状況等の把握
交通環境	公共交通の運行状況や交通結節点までのアクセス（距離、移動手段・時間等）、その他利用可能な交通資源等の把握
ネットワーク	地域住民を中心とする、商業者・交通事業者・行政・支援団体など「地域を支える」多様なプレーヤー・専門家等による支援の体制・ネットワークづくり
フレキシブルな運営	利用状況や運営上の課題等を踏まえたスキームの改良・見直し等に対応可能なフレキシブルな運営
活用可能資源の洗い出し	サービスの運営に協力・連携できそうなモノ・ヒト・コトの洗い出し
既存サービスとの調整	既存の公共交通サービスや買い物支援サービスへの影響の把握や活用・共存方法の検討

## 2. 相談・問合せ先

内 容		連 絡 先
本事業関係	令和4年度・5年度事業の概要等について知りたい	青森県 経済産業部 地域企業支援課 経営力向上グループ TEL:017-734-9134（予定） ※令和6年4月以降の担当課
実証地域関係	本業務の実証地域の状況等について知りたい	八戸市 総合政策部 政策推進課 TEL:0178-43-9124  新郷村 企画商工観光課 TEL:0178-78-2111（代表）
運行関係 (法制度等)	許認可の手続・進め方などについて知りたい (一般乗合旅客運送、自家用有償運送など)	国土交通省 東北運輸局 青森運輸支局 輸送監査部門 TEL:017-739-1501
	利用可能な補助制度などについて知りたい	同上